

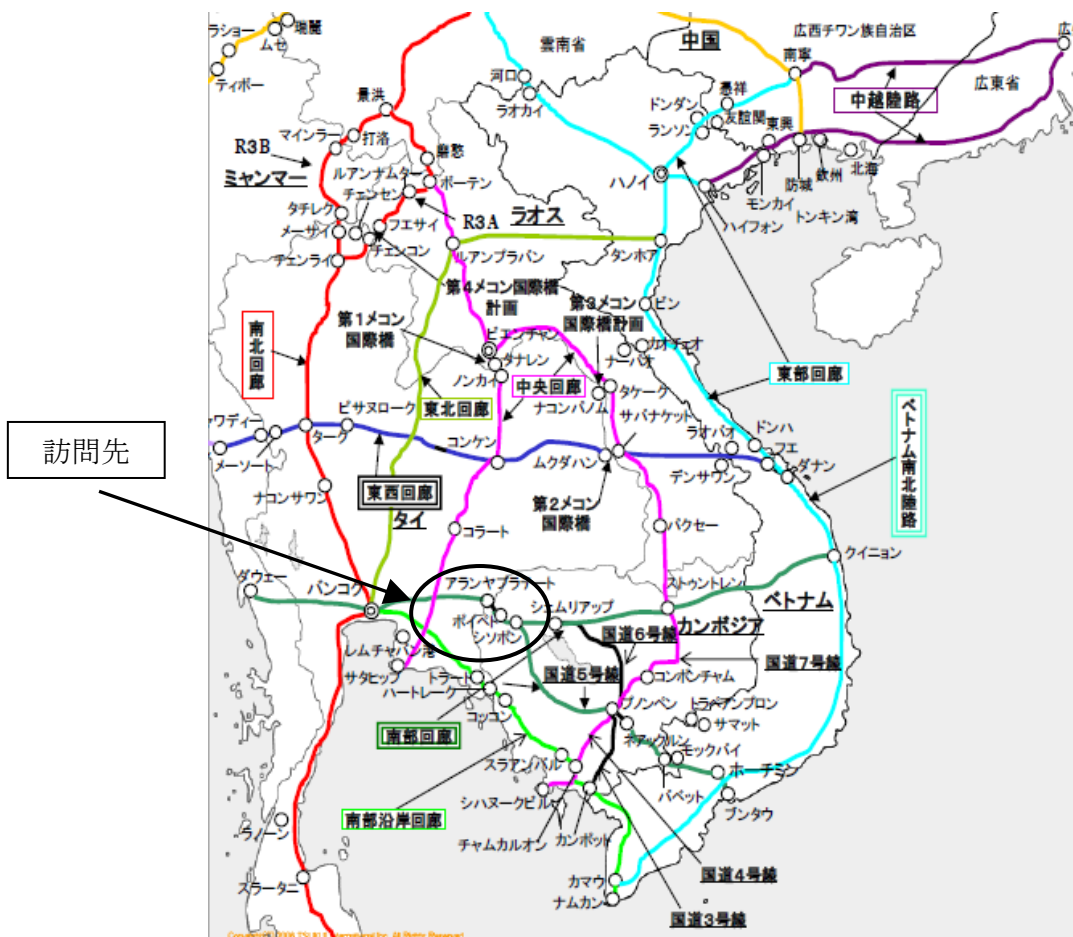
一般調査報告書

タイプラスワン（カンボジア）について

愛知県では、民間金融機関や JETRO と連携し、海外に進出する県内企業の支援を行っています。また、本年 4 月には、海外でさまざまなビジネスを展開している民間企業の知見やノウハウを活用し、実務的な支援を通じて県内企業のスムーズな海外展開につなげることを目指し、豊田通商株との間で協定を締結いたしました。

同社では、アジアでの工場進出の受け皿となるテクノパーク事業を展開しており、今回、カンボジアのポイペトにあるテクノパークを訪問する機会を得ましたので、タイプラスワンの視点も含め、カンボジアについてご報告したいと思います。

《カンボジア及び周辺国地図》



タイでは現在、少子化が急速に進むとともに、失業率も約1%程度で推移しており、企業の人手不足感が強くなっています。また、人件費も年々高騰しており、タイに進出する日系企業はコストを下げるとともに、労働集約的な機能を人件費の安い周辺国に移す、いわゆる「タイプラスワン」の動きも出来てきており、そうした企業の進出先として近年、カンボジアが注目されています。

カンボジアは、周辺をタイ、ベトナム、ラオスに囲まれており、国土面積は181,035平方キロと日本の約半分の広さで、人口は1,577万人と、比較的小さな国となっています。

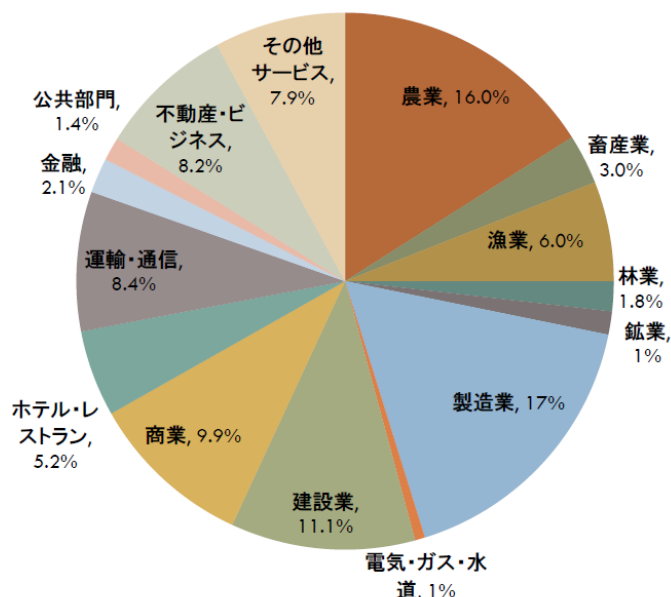
近年のカンボジア経済は、縫製業等に係る輸出の増加や、外国投資の拡大、さらにはアンコールワットに代表される堅調な観光業などを背景に、GDP成長率が過去6年の平均で約7%と、高い成長が続いています。

また、1人当たりGDPも、2010年の781USDから2016年は1,229USDへと上昇しており、プノンペンでは、ファーストフードやブランド店も進出しています。さらに、外資による不動産投資により富裕層も輩出しており、レクサスやベンツといった高級車も目立つようになってきています。

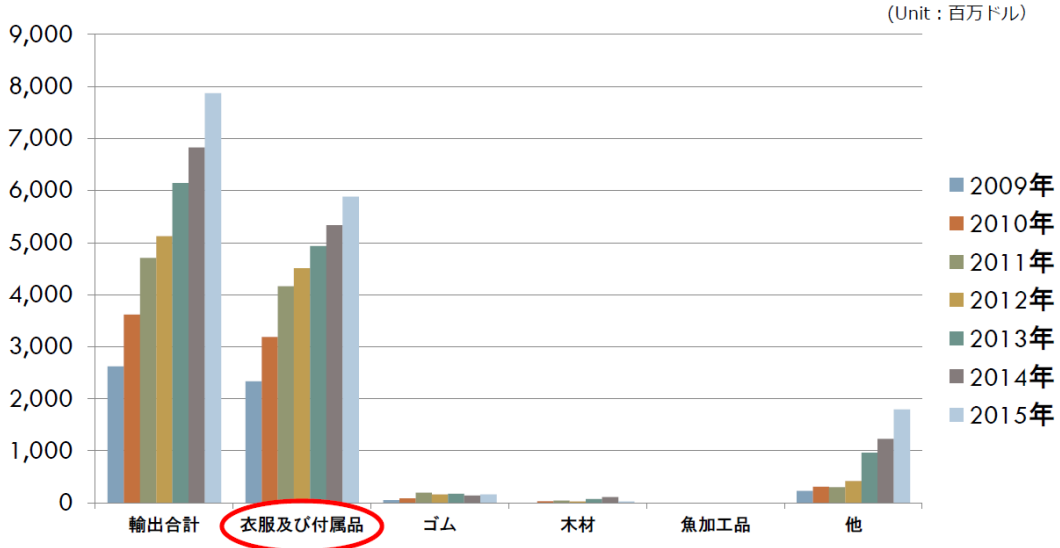
なお、貨幣はリエルというカンボジア通貨がありますが、流通貨幣は米ドルが80%以上ともいわれています。

カンボジアの産業をGDP比で見ると、農業、畜産業、漁業等の一次産業が約25%、製造業は17%、その他、建設業、商業と続いています。製造業では縫製といった軽工業が中心で、品目別輸出額では8割が衣服及び付属品となっています。

《カンボジアGDP産業別構成比》



《カンボジア品目別輸出額》



※Source : General Department of Cambodia Customs and Excise

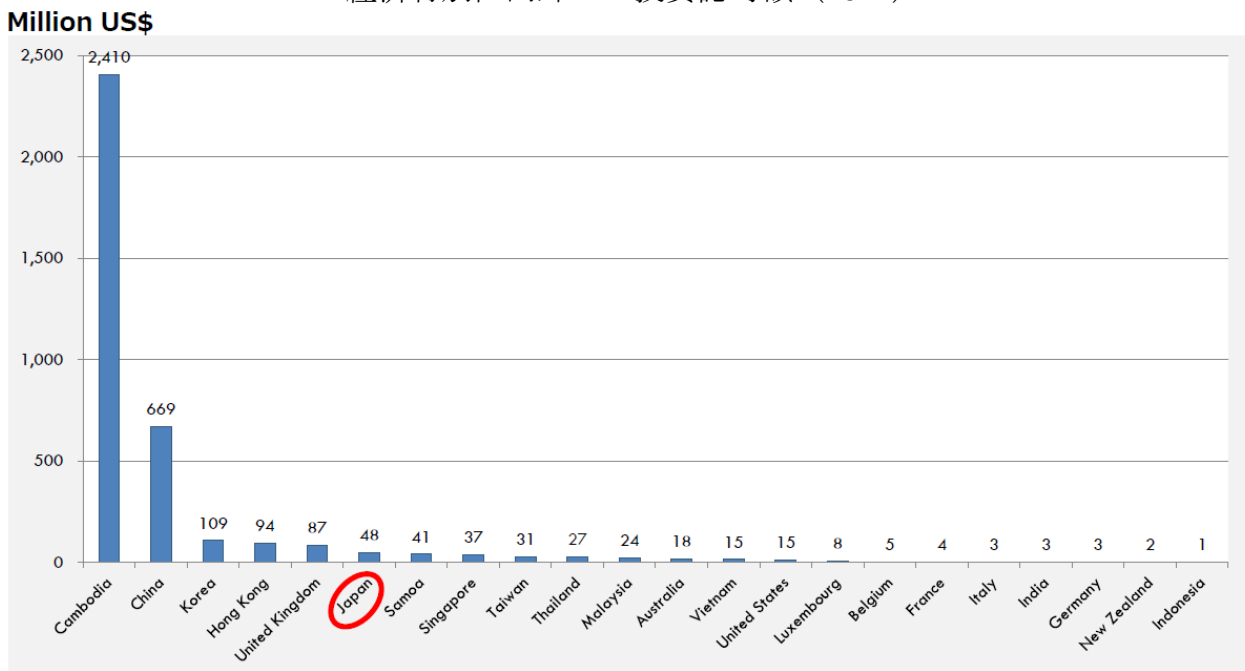
カンボジアの外資投資政策は、不動産の取得制限を除き、基本的に制限されている分野はなく、比較的自由に外国人投資が可能となっています。

また、投資優遇措置では、適格投資として認められたプロジェクト（QIP）に対しては、法人税や輸入関税、付加価値税の免税などが認められています。

国別の外国投資では、認可額ベース（2014年）で中国が最も大きく、主に不動産やインフラへの投資が中心となっています。

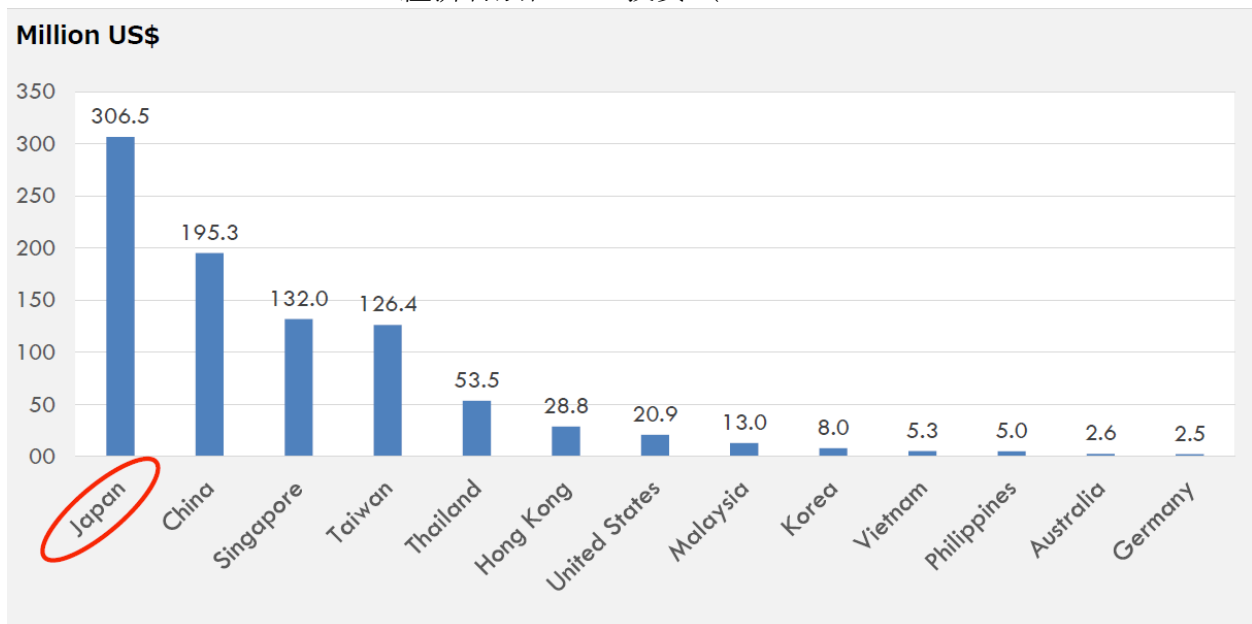
日本は5番目ですが、工業団地内に工場を設置する進出形態が多く、経済特別区への投資では、日本が最大となっています。

《経済特別区内外への投資認可額（2014）》



Source: Cambodian Investment Board

《経済特別区への投資（1994～2014）》



Source:CSEZB, 各SEZ

なお、現在カンボジアで稼働している経済特別区は9ヶ所あります。特別区内の管理事務所には、商業省や関税消費総局といった関係省庁の担当者が常駐し、行政手続きのワンストップサービスを受けることができます。

日系企業の進出に伴い、カンボジア日本人商工会議所の正会員数も増えており、2011年の87社から、2016年には177社と2倍になりました。また、2015年にはプノンペンに日本人学校も開校し、日本食レストランも増えるなど、駐在員の生活環境も整いつつあります。

さて、今回訪問したカンボジアのポイペトテクノパークは、カンボジアとの国境から約8キロに位置するSANCO経済特別区内にあります。バンコクからは車で約3時間半、レムチャバン港からも約2時間半の距離にあり、タイの補完的な拠点を設置するには利便性の高いロケーションとなっています。

また、国境から20キロ圏内はタイのトラックの乗り入れがそのまま可能なため、ポイペトテクノパークでは、貨物の積み替えが不要となっています。

今回は、バンコクから国境の街アランヤプラテートに向かい、そこから陸路で国境を越え、カンボジアに入国し、ポイペトの工業団地へと向かいました。

バンコクからカンボジアへ向かう道路は、プノンペン、ベトナムのホーチミンと続くいわゆる南部経済回廊で、国境までは片側2車線の整備された道路となっています。カンボジア側でも、プノンペンの東部に日本のODAで「ネアックルン橋（つばさ橋）」が整備され、物流環境が徐々に整いつつあります。

国境周辺は、タイへ商品の仕入れに行くカンボジア人やバックパッカーらしき欧米人の往来で混雑しており、通関で待機している大型の貨物トラックも数キロメートルにわたり列をなしていました。時間帯によっては、入国や通関手続きが数時間待ちのこともあるとのことでしたが、今後、トラック専用ゲートやバイパスなども整備される計画で、こうしたトラックの長い列の解消が期待されています。

《貨物トラックが通関手続きで待機》



《テクノパーク事務所、工場》



ポイペトのテクノパークは、2016年9月に開業し、2ヘクタールの敷地にレンタル工場が建っており、その中を7区画に分けすでに6区画は売却済みとのことでした。

このテクノパークの特徴は、レンタル工場としての機能に加え、会社設立支援、キャンティーン（食堂）提供、経理税務サポート、ワーカー派遣、人材教育、受託製造（有償）を行っており、進出企業が本業に集中できるよう、海外に工場を建てる際に直面する様々な周辺課題をサポートしているとのことでした。

カンボジア進出の最大のメリットは、安く若い豊富な労働力です。ベースとなる基本給や賞与（月数が少ない）が周辺国より低いため年間負担額が安く、また、土曜も標準勤務となっているため、実労働時間も長くなっています。

入居企業は、コストダウンを目的にタイの機能を移管している部品メーカー企業が多く、実際に入居企業にお聞きしたところ、以下のようなお話を伺えました。

- 若く安い労働力に期待して進出した。まじめで、勤勉なワーカーが多い。
- 工場勤務がはじめての労働者もいるので、ワーカーの教育は重要。
- タイとの国境沿いに位置していることから、タイ語を話せる人も多く、タイ人の管理職を幹部として送り込むことで、彼らのモチベーションを上げ、人材育成にもつながる効果もあった。

一方で、カンボジア進出の一般的な課題としては、割高な電気料や、脆弱なインフラ、教育水準の高い熟練工の不足などがあげられます。

2015年のAEC（アセアン経済共同体）の発足を契機に、2018年には域内の関税はほぼ撤廃され、今後、タイのサテライト拠点設置の動きは、カンボジアも含めアセアンに広がることが予想されます。当事務所では引き続きアセアンに関する情報をレポートしていきます。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。

バンコク産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力しておりますが、その正確性を保証するものではありません。

本情報の採否は読者の判断で行ってください。

また、万一不利益を被る事態が生じましても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。